

外国語教育メディア学会 (LET)  
2016 年度  
第 87 回春季中部支部研究大会

# プログラム

日時：2016 年 5 月 28 日 (土) 9:30-17:00  
場所：金城学院大学 N1 棟 6 階  
〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目 1723 番地  
Tel:052-798-0180 (代表)

会場校実行委員長：種村俊介 (金城学院大学)

主催：外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部  
後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県私学協会



問い合わせ先  
メール：支部サイト  
<http://www.letchubu.net> の「お問い合わせ」  
外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部事務局

Twitter: @LETChubu

## 日程

9:30 受付 【N1 棟 6 階 エスカレーター・階段前、エレベータ横】  
9:30 展示 【N1 棟 6 階 ラウンジ前】

10:00－10:10 開会式 【611 講義室】

司会：鈴木薫（名古屋学芸大学）

主催者挨拶：高橋美由紀（中部支部支部長）

開催校挨拶：高野祐二（金城学院大学文学部部長）

10:20－11:40 2015 年度 LET 学会賞新人奨励賞受賞記念講演 【611 講義室】

「タスクに基づく言語教授法とはなにか―その考え方と最新の動向」

講師：福田純也（静岡県立大学）

司会：天野修一（静岡大学）

講師紹介：伊藤隆（名古屋学院大学）

タスクに基づく教授法（Task-based language teaching, TBLT）は、認知的アプローチによる第二言語習得研究をもとに提唱されてきた教授法のひとつであり、近年ではさまざまな周辺分野の知見を取り入れながら発展してきています。本発表では、TBLT の基本的な考え方、提唱された背景および関連研究、近年の動向、そして残されている問題点を、講演者が行ってきた研究に触れながらお話したいと思います。

本発表の中で扱う内容は以下のとおりです。まず、(a) 最初期に TBLT が提唱されるきっかけとなり、その後も活発な研究が続いている、教授法の心理言語学的な根拠を概観し、その上で (b) 他分野からのさまざまな批判を踏まえ、TBLT に取り入れられてきている教育思想を説明し、最後に、(c) 日本という文脈に即した、TBLT が持つ未解決の問題、および教育実践に対する意義を考察します。これらの内容を俯瞰した上で、議論を通して、TBLT に対する考察を深めたいと思います。

11:40－12:40 昼食

展示等ゆっくりご覧下さい。【N1 棟 6 階ラウンジ】

12:40－13:00 総会 【611 室】

13:00－14:10 **研究発表・実践報告**

(1)13:00－13:30 (2)13:35－14:05 (3)14:10－14:40 (4)14:45－15:15

<第1室> **【604室】** 司会：福田純也（静岡県立大学）

- (1) 外国語における文法的慎重性とジェンダー  
－多母集団の検証的因子分析による測定および構造不変性の検討－  
草薙邦広（広島大学）
- (2) 統語的に複雑なエッセイの書き手は高熟達度か  
－平滑化スプラインを援用した検討－  
西村嘉人（名古屋大学大学院生）
- (3) ニュージーランドの聴覚障害者を対象とした句と複合語の音声認識と発話に  
関する調査：体感音響システムによる情報伝達の検証  
鈴木薫（名古屋学芸大学）
- (4) 年間100万語英語多読の長期継続支援に関する事例研究  
柴田里実（常葉大学）

<第2室> **【605室】** 司会：関山健治（中部大学）

- (1) プロジェクト発信型英語プログラムへの英文法チェックシート導入  
－学生の自律的な学習を促し、英文テキストの校正力向上を目指す－  
辻香代（立命館大学）
- (2) Preferred Platform for Reading and Grammar: Email, Mobile Website,  
or Mobile App  
Douglas Jarrell（名古屋女子大学）
- (3) スマホ対応アカデミック語彙学習ウェブ教材の開発  
石田知美・古泉隆・松原緑・小松雅宏・杉浦正利（名古屋大学）
- (4) 高等学校における国際理解教育を主題としたプロジェクト型学習  
伊藤佳貴（大同大学大同高等学校）

- 15:20-17:00 シンポジウム **【611 講義室】**  
「学習者同士の学び合いー授業づくりのポイント」  
コーディネータ：柳善和（名古屋学院大学）
- 「英語コミュニケーション能力の育成を目指して」  
パネリスト 森藤真言（愛知県教育委員会高等学校教育課）
- 「学び合い・磨き合いを通して『もっと伝えたい』と思える授業の構築ーICTを活用してー」  
パネリスト 立石安祐美（岡崎市立葵中学校）
- 「相互評価・自己評価から学習者は何を学ぶか：単元のデザインとアセスメントの観点から」  
パネリスト 亘理陽一（静岡大学）

懇親会にご参加されます方は、N1棟4階 リリーカフェへお集まりください。

17:30-19:30 **懇親会**  
N1棟4階 リリーカフェ

司会：松井かおり（朝日大学）  
開催校挨拶：種村俊介（金城学院大学）

## 研究発表概要

<第1室> **【604室】**

発表1 外国語における文法的慎重性とジェンダー

ー多母集団の検証的因子分析による測定および構造不変性の検討ー[研究発表]  
草薙邦広（広島大学）

外国語における文法的慎重性（GC）とは、外国語のパフォーマンスにおける速さと正確さの二律背反を媒介する学習者の心理的および行動的特性である。これまでの研究でGCは、複数の課題成績および外国語に関わる学習者ビリーフとの相関を示し、一般的な性格特性とは強い相関を示さないことがわかっている。しかしながら、GCとジェンダーの関連については不明であり、それ以前に、GC尺度（Kusanagi et al., 2015）のジェンダー間における測定不変性および構造不変性が検討されていない。そこで本研究は、ジェンダーによって層化したGC尺度のデータを多母集団の検証的因子分析にかけることによって、(a) 配置不変モデル、(b) 弱測定不変モデル、(c) 強測定不変モデル、(d) 因子平均に等値制約を置くモデルをそれぞれ検証した。分析の結果、最後のモデルがもっとも適切であると判断した。このことは、GC尺度はジェンダー間において測定不変性を持ち、更に因子平均に差はないということを示す。

発表2 統語的に複雑なエッセイの書き手は高熟達度か  
—平滑化スプラインを援用した検討—

[研究発表]

西村嘉人 (名古屋大学大学院生)

これまでの L2 ライティングの研究において、統語的複雑さというテキスト上の特徴は、熟達度に応じて線形に発達していくわけではないことが指摘されている。Norris and Ortega (2009) では、Systemic Functional Grammar を理論基盤に、熟達度に応じて異なった指標を用いて統語的複雑さを測定するべきであると主張している。しかしながら、熟達度別に異なった統語的複雑さ指標を用いた研究はまだあまり行われていない。本研究では、学習者コーパス NICE のエッセイを対象に、テキスト上に現れる統語的複雑さが熟達度に応じて線形に発達していかないという先行研究の知見を踏まえ、ノンパラメトリック回帰分析の一種である平滑化スプラインという手法を用いて、統語的複雑さ指標と学習者の熟達度との連関関係を調査した。回帰分析でのモデルを比較した結果、指標によって線形に当てはまる指標もあれば、非線形の当てはまりが良い指標もあった。この結果に基づき、熟達度ごとのテキスト上の特徴を統語的複雑さという側面から議論する。

発表3 ニュージーランドの聴覚障害者を対象とした句と複合語の音声認識と発話に関する調査：体感音響システムによる情報伝達の検証

[研究発表]

鈴木薫 (名古屋学芸大学)

本研究では、ニュージーランドの Kelston Deaf Education Centre (KDEC) における聴覚障害学生を対象とした調査について報告する。鈴木 (2014) では、英語のリズム情報を伝えるために体感音響システムを利用する調査を、国内の聴覚障害生徒を対象として行い、音の重低音域を振動情報にして体性感覚から伝達する効果を検証している。本研究では、同様の調査を KDEC において実施した結果について報告する。特に句と複合語の音声認識と発話に焦点を当て、調査データを事例ごとに分析し、体感音響システムによる効果を検証する。さらに、言語環境や聴覚補償の形態の違いが学習者に与える影響、意識学習と無意識学習の違い、感覚器と脳内処理の関係などについて示唆を与えるデータに着目して考察を進める。

発表4 年間 100 万語英語多読の長期継続支援に関する事例研究

[実践報告]

柴田里実 (常葉大学)

インプット量を担保する手段の一つとして、多読という方法は広く知られている。しかし、多くの研究で報告されている多読量は、比較的少ないのが現状である。Belgar and Hunt (2014) は研究参加者の年間多読量は、Nation (2009) などが示す年間 50 万語を、大きく下回ることを指摘している。筆者は、2010 年より、大学での授業で英語多読を導入し、授業外での多読を奨励してきた。その結果、年間 100 万語レベルで多読をする学習者を、継続的に輩出するような支援するシステムを作り出すことができた。その一方で、複数年に渡り、多読を継続させることは容易ではなく、多くの学習者が 1 年間で多読をやめてしまっていた。その結果、インプット量が減少してしまう傾向が観察された。そこで、長期的な多読支援システムの構築が必要であると考え、支援体制の整備を目指してきた。本発表では、これまでの実践を踏まえ、継続的に 100 万語読ませる支援システムを、2012 年からのデータを提示しながら提案する。

<第2室> 【605室】

発表1 プロジェクト発信型英語プログラムへの英文法チェックシート導入

—学生の自律的な学習を促し、英文テキストの校正力向上を目指す— [実践報告]  
辻香代 (立命館大学)

アクティブ・ラーニングを意識したライティング活動の一環として、「英文法・語法セルフチェックシート」をプロジェクト発信型英語プログラムに導入する。Project English1 (P1) を受講する大学1回生を対象に実施する。P1の授業では毎週100語程度の英文テキストの作成を課しているが、基本的な英文法・語法・語彙等の誤りが目立つことを否めない。誤りを指摘する役割を担うライティング指導ツールに原稿をかけることも課題の一環としているが、指摘されてからでなく、それらの誤りに自発的に気付くことが重要だと考える。そこで、学生の自律的な英文法や語彙への学習を促し、英文テキストの校正力を高める可能性を秘めるセルフチェックリストを作成する。本研究は、独自のセルフチェックシートの妥当性を検討する。

発表2 Preferred Platform for Reading and Grammar: Email, Mobile Website, or Mobile App [実践報告]

Douglas Jarrell (名古屋女子大学)

Shudong Wang and Jun Iwata of Shimane University together with the presenter at Nagoya Women's University conducted a joint project to develop student reading and grammar skills by sending relevant materials to students' mobile phones by email. Meanwhile, the same materials were uploaded to a website designed for mobile devices, and to a mobile app developed for both iPhone/iPad and Android. When the students have the above three choices, which platform do they prefer? What are their reasons for their choice? This presentation will look at student preferences with data collected from the three tools as well as data from a questionnaire and follow-up interviews.

発表3 スマホ対応アカデミック語彙学習ウェブ教材の開発 [実践報告]

石田知美・古泉隆・松原緑・小松雅宏・杉浦正利 (名古屋大学)

名古屋大学ではアカデミックイングリッシュ養成のための課外学習 e ラーニング教材『eFACE』を使用している。この教材の中に語彙・表現を学習する部分はあるが、限られた単語が取り上げられているのみであり、語彙力を向上させるためには十分な量とは言えない。そこで、『eFACE』の読解テキストの中からアカデミックな語彙を学習するのに重要だと思われる単語と表現を、TOEFL 向け教材の英単語リストを参考にして、618語選定し語彙リストを作成し、スマホで学習できるウェブ教材を開発した。本教材は独立した教材として好きな時に語彙を学習できるだけでなく、『eFACE』をPCで学ぶと同時に辞書代わりにスマホで語義を確認するという使い方もできる。今後、本教材の中にリーディングテキストを入れ、単語・表現を文脈中で学習できるようにしたい。このように既存の教材のコンテンツを再利用しスマホに対応させることで、教材の活用が促進されると考えられる。

## 発表4 高等学校における国際理解教育を主題としたプロジェクト型学習 [実践報告]

伊藤佳貴 (大同大学大同高等学校)

発表者は、勤務校において「持続可能な開発のための教育」を主題としたプロジェクト型学習の実践に取り組んでいる。平成26年度には、JICA 中部主催による開発教育（国際理解教育）指導者研修を受け、同年7月、教師海外研修にてアフリカのガーナ共和国に派遣された。本発表では、その研修の成果として平成26年度から27年度にかけて取り組んだプロジェクト型学習の実践内容を報告する。発表では、プロジェクトの概要を解説した後に、導入時に実施した「英語で行う貿易ゲーム」と展開時の「ガーナ聾学校とのスカイプ交流授業」を事例として取り上げて、活動内容を紹介する。そして、プロジェクト型学習の導入が英語学習に果たす役割について考察する。また、この実践では参加型学習（アクティブラーニング）の手法が用いられており、指導にはファシリテーションの技術が求められる。発表では、実践を通して見出された指導上の留意点を挙げながら、効果的な指導の在り方についても考察する。

### 賛助会員展示

チエル株式会社	<a href="http://www.chieru.co.jp/">http://www.chieru.co.jp/</a>
ピアソン・ジャパン株式会社	<a href="http://www.pearson.co.jp/">http://www.pearson.co.jp/</a>
電子システム株式会社	<a href="http://densys.jp">http://densys.jp</a>
リアリーイングリッシュ株式会社	<a href="http://www.reallyenglish.co.jp/">http://www.reallyenglish.co.jp/</a>

### 昼食

- ・当日は学内の食堂は休業です。コンビニエンスストアはN1棟3階にありますが、品数が限定されておりますので、ご昼食を持参されることをお勧めします。（飲料の自販機は1階にあります。）

### 懇親会

- ・参加費：3000円（飲み物代含む）
- ・事前申し込み方法：下記のURLでお申し込みください。

URL：<http://www.letchubu.net/modules/eguide/event.php?eid=61>

事前の申し込み [5月22日（日）まで] をお勧めいたします。定員に満たない場合は、当日でのお申し込みも可能です。

### その他の情報

- ・荷物置き及び控え室は6階609室です。スーツケース等おいていただいても構いませんが、必ず貴重品はお持ちになしてください。

## 大会会場アクセス

公共交通機関をお使いください。お車での来校を希望される場合は、LET 中部支部事務局へお問い合わせください。

名古屋駅：地下鉄東山線・藤が丘行に乗車し、「栄」駅で下車、名鉄瀬戸線「栄町」駅より尾張瀬戸行に乗り換え、「大森・金城学院前」駅で下車、徒歩3～4分

栄駅：名鉄瀬戸線「栄町」駅より尾張瀬戸行に乗り換え、「大森・金城学院前」駅で下車、徒歩3～4分

新瀬戸駅：名鉄瀬戸線・栄町行に乗り換え、「大森・金城学院前」駅で下車、徒歩3～4分

金山駅：JR 中央本線・高蔵寺、多治見行に乗り換え、「大曾根」駅で下車、名鉄瀬戸線「大曾根」駅より尾張瀬戸行に乗り換え、「大森・金城学院前」駅で下車、徒歩3～4分

詳しくは、以下の URL でご確認ください。

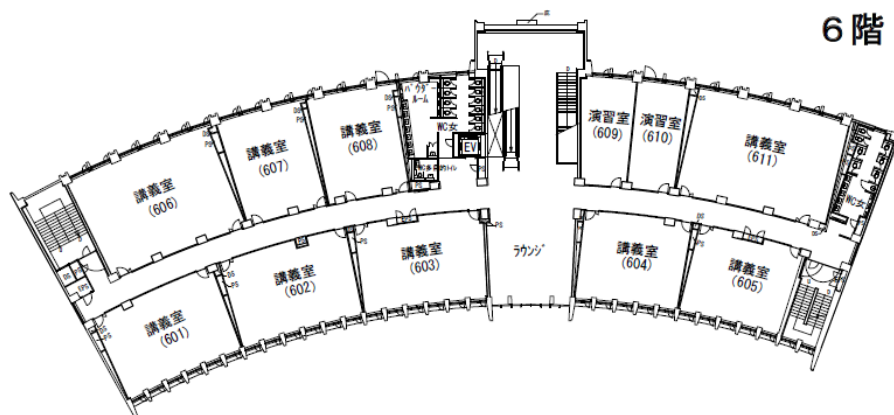
<http://www.kinjo-u.ac.jp/pc/contents/access.html>

### 会場地図



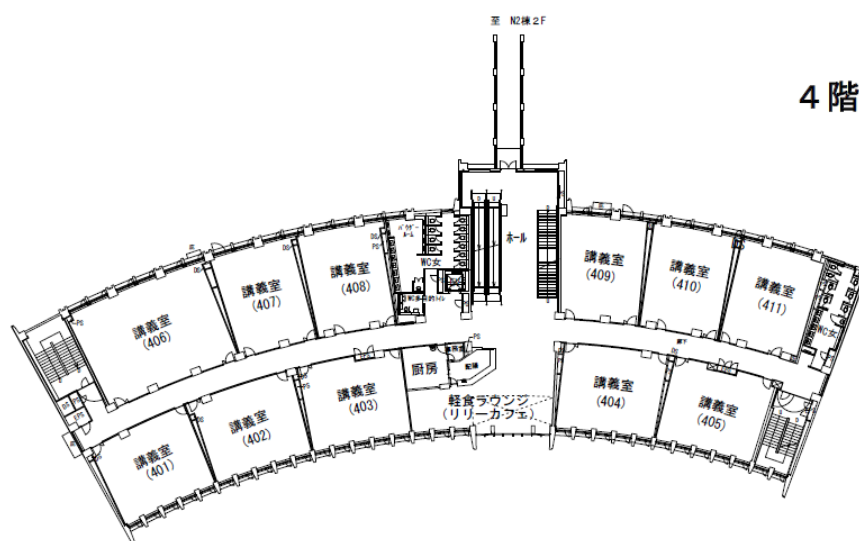
研究会会場：□9 N1棟 正門より徒歩2分

### 会場案内図





## 懇親会案内図



### 大会参加のご案内

- 会員の方の参加は無料です（ご参加までに、年会費をご納入ください）。
- 非会員の方は当日会員参加費 1,000 円を受付にてお払いください。

LET 中部支部サイト：<http://www.letchubu.net>

本大会サイト：[http://www.letchubu.net/modules/xpwiki/?第 87 回支部研究大会](http://www.letchubu.net/modules/xpwiki/?第87回支部研究大会)

### 新規ご入会案内

LET 会員として入会手続きをしていただきますと、当日会員参加費金額が、年会費から、割引されます。会員になられますと、LET 全国研究大会、支部研究大会（年 2 回）での研究発表、実践報告、紀要への投稿などをして頂くことができます。

- ・ 当日会員参加費として 1,000 円をお支払い下さい。
- ・ LET 本部サイトにて入会登録をしてください（仮会員）。
- ・ 仮会員になられましたら、後日、年会費をご請求申し上げます（お支払いいただいた当日会費参加費 1,000 円を割引きます）。
- ・ 年会費をお支払いいただきますと、正会員になります。（3 ヶ月以内にお手続きをお願いします。）

**会員登録、会員情報の更新はこちらから**

**LET 本部サイト：<https://www.j-let.org/>**